



## ～父の日真面目エピソード受賞作品 10 作品～

鮮魚商をしていた父。私の小学校の授業参観があるというので、前日には床屋に行き散髪。当日は、仕出しがある時に、着用する板前の服装で、失礼のないように!!と決めていざ教室に。

父が来ている事にまだ気付いていなかった私ですが、クラスみんなが後ろを見てこそそと話しているので気になって見てみると、一人だけ、他のお父さんと違う雰囲気の人が…

そう、私の父でした。真面目な性格だけに、父なりに正装で参観!!それが、ちょっと場違いな感じでしたが、私は、「家のお父さん魚屋だからね!! カッコいいでしょ」と自慢していました。

担任も、それを察して、色々なお仕事があるからね～と言ってくれたのを今でも思い出します。背広や、ポロシャツのお父さんよりも、家のお父さんの正装が一番。

私が嫁いだ後の最初で最後の父の日プレゼント。

画家でもないのにベレー帽。真面目でシャイな父ですが喜んで被ってくれていました。

定年退職後、縁あって長年の夢だった幼稚園の先生に! 有難い事に元気ならずと勤めてほしいと言われ真面目に 20 年近く勤めあげ市からも表彰されるほど頑張っていました。若い先生方とも絵文字付きのメールをやり取りし楽しそうでした。

最後は癌になってしまいましたが、亡くなる数日前、ベッドの上から数カ月先の運転免許更新の予約をしていた事がわかり、驚くとともに父の生きる力、生きようとする姿にいろいろ悩んでいた事が小さく思え、父の分まで頑張ろうと気持ちを新たにしました。

葬儀の祭壇にはベレー帽の父がにっこり笑い、思い出コーナーには園児とお揃いのベレー帽を被った父が微笑んでいました。

うちのパパは「真面目イクメンパパ」なんです！

娘が3歳のときに、そろそろ2人目が欲しいな～と考えていた私。でもお互いの実家が遠くて産後見てくれる人がいない。

そのことをパパに相談すると、パパは少し考えたあと、「よし！俺が育休取るべ！」と頼もしい返事をくれました。幸せなことにすぐに第二子を授かり、妊娠中からパパは私に代わって、上の娘を幼稚園まで自転車で送り迎えし、洗濯をして、ご飯を作って、

今では娘の幼稚園のお弁当まで作ってくれるようになりました！（しかも最近は娘のリクエストのぐるぐるウィンナーやお花の形をしたハムまで入れて日に日に腕前を上げています）

産まれた赤ちゃんも今日で生後3ヶ月！新しい家族が増えてワタワタしちゃう時もあるけど、家族4人力をあわせて楽しく過ごしていこうね！

ちなみに最近はお弁当のレパートリーを増やしたい、と「かわいいおべんとうのレシピ本」を読み始めたパパ。どんだけ真面目なの～！と感心してしまいます（笑）

ちょうど4年前突然私が入院することになり、普段忙しくて電話に出られない主人にダメ元で電話をしたらワンコールで繋がりました。急遽入院することを伝えると、午後から仕事を休んで直ぐに来てくれました。

集中治療室にいたためどこにも連絡できない私の代わりに、入院の手続きや会社などへの連絡をテキパキとしてくれ、それから毎日半休を取って病室に来てくれました。

一般病棟に移った後もお見舞い時間終了までいてくれて、文句も言わず洗濯物を抱えて帰り翌日は洗濯物と、治療の一環で水をたくさん飲んでいて私のために毎日大量の水を抱えて来てくれました。

いつも同じ時間に来る主人を見ていた同室の人が『静かで、毎日来てくれるなんて優しくて真面目な旦那さんね』と言ってくれたことを、ちょっと恥ずかしかったけど嬉しく思いました。

退院後もいろいろ気遣ってくれて、本当に頼りになる人です。生きて一緒にいられる事に感謝です。

穏やかで口数が少なく、声を荒げることも全くなかった父に、本気で怒鳴られたことが一度だけある。

私が高校生の頃、イタリアンレストランでアルバイトを始めて、門限を破ったときだ。帰りが遅くなってしまったことに慌てながらも、そっと家の玄関を開けたとき、仁王立ちして私を待ち構えていた父の姿に息をのんだことを、今でも鮮明に覚えている。

あれから半世紀。現在私は実家で、年老いた父母の介護をしている。90歳のとき脳梗塞で倒れた父は、以前に増してさらに無口になった。自力では歩行も困難で、ベッドの上でぼんやりと過ごす父にあれこれ話しかけても、返事が返ってくることはほとんどない。最近は時おり、娘の私のことも分からなくなる。ゆっくりと、静かに、生涯の終わりに向かっていく父を見ていると、毎日、持って行き場のないやるせなさを感じていた。

だが先日、そんな父の大声が、家中に響き渡った。

私は、入浴のために母が脱衣所で着替えるのを少し手伝ったあと、2階に上がり、洗濯物を干そうとしていたところだった。そのとき、階下で、父が声を張り上げて叫んだのだ。

「お母さんが、風呂から1時間出てこないぞー！」

聞いたこともない大音声に、ざっと血の気がひいた。たった今、風呂に入ったばかりの母に何かあったのかと、転げ落ちるように慌てて階段を降りると、そこには、廊下で這いつくばっている父の姿があった。私はもう、何に驚いていいのかも分からないほどに混乱しながら父を飛び越えて、風呂のドアをガラッと開けると、キョトンとした顔をして湯船につかる母と目が合った。

訳が分からず、しばらく母と見つめ合ったまま放心していたが、だんだん状況を把握すると、腹の底から笑いがこみ上げてきた。軽度の認知症がある、父の勘違いだったのだ。

そうだった。昔からそうだった。無口な父が声を張り上げるのは、娘の私のため、家族を守るため、そんなときだけだった。自分では歩けないのにベッドから降りて、細い腕の力だけで廊下を這ってきた父は、昔と何も変わらない。いつも、私たち家族を思ってくれる。

父の勘違いに、三人で大笑いした。父が脳梗塞で倒れ介護が必要になってから、こんなに笑い声を上げたことはなかった。父も母も、無事で良かったと言い合った。おかしくて、切なくて、私は涙が出るまで笑った。

そして今日も、ベッドでぼんやりと静かに過ごす父に、私は話しかける。返事がほとんどなくても、それは、我が家が平穏である証なのだ。

私の父は、私が学生の時、門限がある厳しい真面目な父でした。

しかし、ある日短大の飲み会で帰りが遅くなり終電が間に合わなくなってしまいました。母に電話をして迎えに来てほしいと伝えたら、「歩いて帰ってきなさい。」と、電話を切られてしまいました。

その日はあきらめて歩いて帰ろうと下車したら、何と駅のロータリーに父の車が停まっているではありませんか…何も言わずに車のドアを開けてくれた父のことが今でも心に残っています。

あれから 30 年…真面目で優しい父は、私だけでなく孫の送迎や、忘れ物を届けるなど…縁の下の力持ちを發揮してくれています。そんな孫たちも立派な社会人として働いているのも、主人が他界してから「俺が一家の大黒柱だからな。あと、ひと頑張りしなきやな。」と、言ってくれる父に今度は私が大黒柱になり、恩返しをしていきたいと思う今日この頃です。

うちのパパは真面目過ぎるくらい真面目です。

仕事も頑張る。育児も頑張る。遊ぶのもふざけるのも全てにおいて手を抜きません。

これはコロナ前の子供の運動会の話ですが、父兄参加の 100m 走を全力で走ったものの、日頃の運動不足がたたってか、ゴール手前で派手に大転倒。会場中の笑いをかさりました(笑)

しかしこれにめげないのが我がパパで、普通ならもう転ばないように運動に励んで体を仕上げる所、何を勘違いしたのかゴール手前でもっと派手に転ぶ練習を始めました。

真面目な？性格が災いしてか、華麗にゴールするより笑いを取る方へ舵を切ってしまいました。

その後は毎年の恒例行事のようにゴール手前で派手に大転倒を披露する姿は、家族として果たしてこの人は真面目なのかおバカなのか少し心配でもありました。

こんなパパですが笑いを取ることに真面目なパパとして一票推薦します。

父は、鉄のコンクリート詰めのような人だった。硬くて、冷たくて、厳しくて、応用が利かない人だった。しかし、真面目で、土曜日でも日曜日でもよく働いていた。何の贅沢をすることもなく働くのが趣味のような人だった。そんな父が大嫌いで、幼稚園児だった時、祖母の家に遊びに行き何日も帰らなかった。父が心配して母に電話をかけた。「お父さんまだ生きてる？お父さん死んだら帰るよ」と答えたい。

時が経ち、私が奈良県の山間部の小学校の教員になった。自宅からの通勤が無理で下宿することになった。父は、送ってくれ、下宿先の方々に、くどいほど「よろしく願います」と頭を下げていた。

**「あなたのお父さんは、本当に義理人情に厚い真面目な方でしたね。**私や、教頭先生に、わざわざ娘をよろしく願います。と挨拶にいらっしゃいましたよ。盆暮れには、毎年お届け物が送られてきました。暑中見舞い状や年賀状も、毎年届きました。素晴らしい方でした。なかなかあなたのお父さんのような方はいませんよ」と、最初の赴任校と、次の市部の学校の校長先生から、そろってそう言われた。

そのことを知った時、既に父は亡くなっていた。何の贅沢もしないし、何の温かい言葉をかけるでもないし……でも、父は影では限りなく私を愛し、礼を尽くしてくれていたことを初めて知った。

時、既に遅し。礼を尽くすのは、父の真面目さの表れだと思う。その父の思いを受け継ぎ、私も今、お世話になった人には礼を尽くしている。しかし、父のように子供がお世話になっている方々にまでは、礼を尽くすことができていない。それが虚しい。父の日、いつも天国に向かって詫びている。それが、私の父の日である。

パパの趣味は、読書です。出会った頃、本を読みながらマーカーで線をひいたり、ノートに本の言葉を書きだしているのを見て、とても驚きました。

息子がまだ赤ちゃんだった頃、私の睡眠時間は 2.3 時間あれば良いほうで、毎日ヘトヘトでストレスもかなり溜まっていました。パパは、休みの日は私にゆっくり寝よう息子を見てくれたり、ミルクをあげてくれたり協力的でした。

しかし、一旦息子が泣き始めると、泣き止む事はなく、すぐに私が抱っこをしてあやしていました。ある日、夕飯の支度をしていると、息子が泣き始めました。パパが近くにいたので、抱っこでもしてくれるかなあと考えていましたが、しばらく泣き止まないで、息子の様子を見に行くと、なんとパパは隣でのんきに漫画を読んでいました。「なんで、あやさないの！」私は爆発してしまい、「ノートに、偉い人の言葉を書いてる暇あるなら、私に言われた事、忘れないように書いておいてよ！」と激怒しました。

翌日パパのノートには、「**泣いている赤ちゃんを無視しない。お風呂で赤ちゃんから手を離さない。靴下を赤ちゃんの上で脱いで振り回さない。**」と箇条書きで記されているのを見て、ほんと、真面目で面白いなあと笑ってしまいました。

今年に入ってから、日中、家の玄関のポーチにアマガエルが一匹すみつきました。

小さな可愛らしいアマガエルでお父さんが庭木に水やりをするついでに、ジョウロで水をかけてあげるとまるでシャワーでも浴びているかのように気持ち良さそうにしています。

居ない？と思っても隙間に隠れていたり、壁にくっついていたり必ず玄関ポーチにいる存在となりました。

アマガエルは夜になるとお出掛けし、朝には帰ってきて出勤するお父さんを毎日見送ります。

お父さんは「ケロちゃん」と名前まで付けて可愛がっていたのですが…。

つい先日ケロちゃんが帰って来なくなってしまいました。

朝、「あれ…ケロちゃんが帰ってない…」とショックを受けた様子でお父さんが私に報告してきました。

「ケロちゃん帰ってきたら LINE で教えて…」お父さんはそう言ってその日の朝、出勤していきました。

愛着が湧いていたのだと思います。

せつせと水をかけてあげたり、居なくなって心配までして優しいお父さんです。

今日もケロちゃんは戻りません。

ケロちゃん早く戻って来てあげてね。

お父さんが心配してるよ。